

朝霞市立朝霞第五小学校 令和6年度 第3回学校運営協議会

令和6年10月24日(木)
時間 午前11時00分から
場所 1階ランチルーム

司会 教 頭

次 第

- | | |
|-----------------------|------|
| 1 開会の言葉 | 教 頭 |
| 2 会長あいさつ | 会 長 |
| 3 校長あいさつ | 校 長 |
| 4 熟議(進行は会長) | |
| (1) 学校徴収金キャッシュレス化について | 事務主査 |
| (2) 令和6年度学校評価について | 教 頭 |
| 5 諸連絡 | |
| 6 閉会の言葉 | 教 頭 |

★給食試食会 1階ランチルームにて
(運動会スライドショーをお楽しみください)

第4回学校運営協議会 (予定)

令和7年2月13日(木) 14:00～ 体育館3階会議室

コミュニティ・スクール朝五小

第3回 学校運営協議会



- (1) 開会の言葉
- (2) 会長あいさつ
- (3) 校長あいさつ
- (4) 熟議
 - 学校徴収金
キャッシュレス化について
 - 令和6年度学校評価について
- (5) 教育活動近況報告
- (6) 閉会の言葉

1

コミュニティ・スクール朝五小

1、学校徴収金キャッシュレス化について

本校事務主査 吉田舞帆から、
ご説明いたします。

2

コミュニティ・スクール朝五小

2、令和6年度 学校評価について

◆お手元の資料をご覧ください。

- ・朝霞市では、令和4年度から、学校独自の項目を設定できることとなった。
- ・それを受けて、朝霞第五小では、令和4年度より大きく評価項目や形式を改訂した。
- ・令和6年度は、項目内容を大きく変えず、重点課題に係る箇所について評価を行うこととした。

3

コミュニティ・スクール朝五小

2、令和6年度 学校評価について

☆根拠です！

「学校評価ガイドライン」

・平成28年改訂

「学校自己評価システムの手引き～目指す学校像の実現に向けて～」

・平成30年4月

4

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



8月20日 学校保健委員会

5

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について

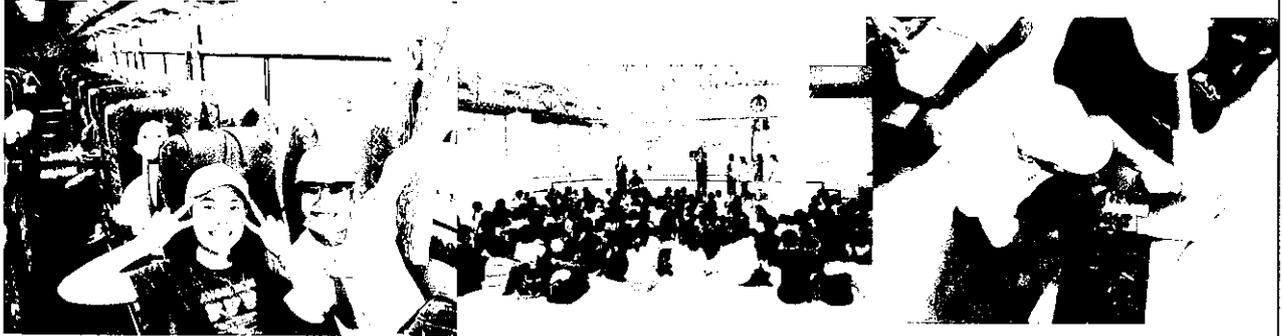


8月21日 体育実技伝達講習

6

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



8月22日～23日 5年林間学校

7

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



8月22日～23日 5年林間学校

8

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



9月10日 1年手洗い指導

9

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



9月18日 1年けん盤教室

10

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



9月20日 6年陶芸教室

11

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



9月26日 3年総合ゲストティーチャー

12

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



9月30日 1年校外学習(さいたま水族館)

13

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について



9月30日 PIA給食試食会

14

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について

10月12日 運動会

15

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について

のちほど、おたのしみに

10月12日 運動会

16

コミュニティ・スクール朝五小

3、2学期 五小の教育活動について

今後も、様々な教育活動を
進めていきます。

17

コミュニティ・スクール朝五小

このあとは・・・

このあと、給食試食会となります。

18

コミュニティ・スクール朝五小

給食を召し上がりながら、
尾崎主幹による、運動会の
パワーポイントをお楽しみください！

＼ ゆうちょBizダイレクトを活用した ／

学校徴収金の キャッシュレス化 推進プロジェクト



朝霞市立朝霞第五小学校

目次

1. はじめに
2. 現状
3. 課題
4. ゆうちょBizダイレクト導入イメージ
5. なぜゆうちょBizダイレクトなのか？
6. 利用している学校の声

はじめに

プロジェクトの背景

現在、本校では、教育に関わる学校徴収金のほとんどを現金で集金しています。現金での集金は、シンプルで分かりやすい反面、現金を取り扱うリスクや集計、支払い業務による時間が多くかかり、働き方改革の面でも改善の余地が多いにある業務であるといえます。この度、学校での現金取り扱いをなくし、学校の安全性を高めるため、インターネットバンキングの導入を提案させていただきました。



現状

校内の1年間の現金集金状況



課題



従来の現金集金だと・・・

家庭

- 集金額ぴったりに小銭を用意しなければならない
- 児童が欠席・忘れた際に学校まで届けなければならない

児童

- 現金を学校まで持参する際の紛失や盗難のリスクがある

教員

- 集金後の保管に注意を払わなければならない
- 確認・支払い作業に時間がかかる

学校

- 大規模なため、一時的に高額な現金が保管される状況ができる

導入イメージ

各家庭の通帳から指定の払込日に指定の金額を自動的に引き落とし、学校の総合口座に払い込み、指定した業者へ振り込みます。



なぜゆうちょBizダイレクトなのか？

手数料が安い

学校は公金のため契約料金が無料。集金代行業者も複数存在するが、手数料が高額なため、保護者の負担が大きくなってしまいます。ゆうちょBizダイレクトなら引落し1件あたり手数料は10円。

利用者が多い

郵便局はどこにでもあるため利用者も多く、指定金融機関として利用しやすい。また、朝霞市内中学校全5校でゆうちょ銀行利用した引落しを行っており、そのまま口座が利用できます。

すべてオンラインで 完結

家庭からの集金も業者への支払いもオンラインで作業ができるため、現金を取り扱うことがなく安全かつ、効率的に進められます。

利用している小学校の声

教員の負担が減った

和光市内の小学校で教材費引落しを導入している学校がなく、導入への負担は大きかったです。現金を集金しなくてよくなったため、教員の負担は相当減ったようで、その点は感謝されました。



家庭の手間が減った

引落し手数料の10円は各家庭に負担をお願いしているが、細かい現金を用意していただいたり、児童にお金を持たせたり、集金日に児童が欠席してしまった際に保護者が学校までお金を持参する必要がなくなりました。



現金の管理をしなくなった

給食費だけでなく教材費と校外学習費も引落しにしてほしいという要望があり、集金方法を変更しました。細かい現金を用意する必要がなくなり、学校も現金の管理をしなくてよくなりました。



ご清聴ありがとうございました

学校評価の意味

教育の質の保証・向上

教育活動の改善

教職員の意識改革

教育委員会による
支援の充実

保護者(関係機関
職員)や地域住民
の学校への協力

評価結果に応じて、
学校に対する条件
整備や支援等の必
要な措置を講じる
ことにより、一定水
準の教育の質を保
証し、向上を図る。

学校運営の改善

目指すべき成果とそ
れに向けた取組につ
いて、目標を設定し、
その達成状況を把握・
整理し、取組の適切さ
を検証することによ
り、組織的・継続的に
学校運営を改善する。

信頼される 開かれた学校づくり

自己評価・外部評価
の実施と結果の説明・
公表により、学校運
営に対する理解と参
画、協力を得て、信
頼される開かれた学
校づくりを進める。

自己評価に係る評価者及び評価のねらい

- 教職員：学校の教育目標や指導の重点の達成を念頭に置き、校長が示す学校経営方針（年度当初の自己評価シート等）に沿って教育活動及び自らの教育指導の在り方について評価し、達成状況を把握するとともに成果と課題を明確にし、必要に応じ次年度に向けて具体的な改善策を講じる。
- 児童生徒：自らを振り返らせ、学校生活に対する姿勢の改善につなげるとともに、教員の学習指導等についても振り返らせ、授業を含む教育活動の改善に役立てる。
- 保護者：連携協力した学校づくりを進めるため、学校運営や教職員の指導、児童生徒の学習状況や生活状況についての意見に積極的に耳を傾け、組織的に受け止め、学校全体として教育活動の工夫改善に努める。

参考アンケート

《全教職員の思いのベクトルを同じくすることが重要》

教職員自己評価とは、「個々人が学校を評価する」のではなく、校長の学校経営方針・自己評価シートに掲げられた課題や学校運方針を念頭に、その課題解決のために、「自らがいかに職務を遂行できたか、自分を評価する」ものです！

★学校関係者評価

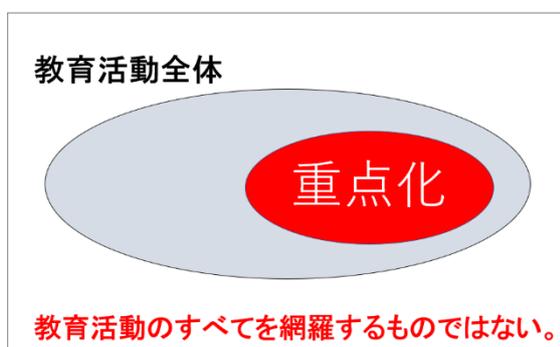
(1) 自己評価を評価する「学校関係者評価」

- ① 自己評価の客観性・透明性を高める
- ② 学校・家庭・地域社会が共通理解し、連携協力により、学校経営の改善に資する
- ③ 「コミュニケーション・ツール」

(2) 主体的・能動的な評価活動

- ① 「学校関係者評価委員会」による評価⇒五小では、学校運営協議会の委員が兼ねている。
- ② 従来から行われている「保護者アンケート」や「児童生徒のアンケート」等は、「自己評価」の客観性などを担保する副次的な評価

学校評価の基本＝重点化！



★ 人事評価との共通点

「人事評価」は、各学校のミッションのもとに、校長の掲げる本年度の目標に沿って、教頭以下の所属職員がそれぞれの目標設定を行い、その実現に向けた具体的な「方策」を立て、その方策の進捗状況を年間を通じて管理し、評価期間の最終段階において「達成度」を評価する、いわゆる「実績評価」を行うものである。この点、「学校評価」と共通するものである。

★ 改善方策の公表と説明責任

(1) 結果及び改善方策の公表

- ① 結果の公表にとどまるのではなく、今後の改善策まで言及する
- ② 保護者・地域の方々からの理解と連携の強化に努める

(2) 家庭・地域へ広く公表

- ① 一部の方面にのみ説明するのではなく、広く公表する姿勢を持つ
- ② 保護者、地域の方々に公表できる方法を複数用意することが望まれる

令和6年11月7日

保護者様
家庭数配付

朝霞市立朝霞第五小学校
校長 三好 正浩

保護者アンケートについて（お願い）

晩秋の候、保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から、本校の教育活動にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

さて、本校では、目指す学校像を「笑顔あふれる元気な朝霞第五小」として掲げ、日々の教育活動に取り組んでおります。今年度も、子供達の学びが充実するよう、教職員で知恵を結集して考え、多方面でご支援を賜りながら、教育活動を進めてまいりました。今後も、子供達にとって質の高い教育活動をすすめていくにあたり、保護者の皆様と連携・協力していくことを目的としてアンケートを実施いたします。下記のとおり、ご回答にご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

記

- 1 回答期間 令和6年11月7日（木）～11月15日（金）
- 2 回答方法 Google フォームによるWEB回答
※ 回答は、各家庭1回でお願いいたします。
- 3 回答先 右記QRコードから回答をお願いいたします。



保護者アンケートQRコード

- 4 その他
 - (1) 朝霞市では、学校ごとに項目を設定し、教育活動の現状に沿ったアンケート内容で実施できることとなっています。
 - (2) お仕事や家庭のご都合により、来校する機会が少ない方もいらっしゃるかと思います。わからない質問については、無理に回答せず、無回答でも結構です。
 - (3) tetoru けやきメールにて、URL を送信いたしますので、そちらから回答いただくこともできます。

令和6年度 保護者アンケート

No.	評価項目	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
1	お子さんは、進んで学習に取り組んでいましたか。				
2	お子さんは、友だちを思いやる気持ちをもって過ごすことができていましたか。				
3	お子さんは、タブレットを使って学習を深めることができていましたか。				
4	お子さんは、学校やクラスのきまりを守って、落ち着いて生活することができましたか。				
5	お子さんは、時間を守って生活することができていましたか。				
6	お子さんは、家庭のほか、先生や友達、お客さんにしっかりあいさつすることができていましたか。				
7	お子さんは、忘れ物をしないで生活できましたか。				
8	お子さんは、楽しく学校に通うことができていましたか。				
9	学校は、保護者に出す文書（たより等を含む）や連絡メールは分かりやすく、ホームページを充実させるなど、家庭との連携を図る努力をしていましたか。				
10	学校は、お子様の不安な事や悩み事に対して適切に対応していましたか。				
11	お子さんは、去年よりたくさん本を読んでいますか。				
12	お子さんは、健康でいられるように運動したり、規則正しい生活を送ったりすることができていましたか。				
13	自由記述	/	/	/	/

令和6年度 児童アンケート

No.	評価項目	よくできている	できている	あまりできていない	できていない
1	あなたは、授業中、先生の話をよく聞いて、進んで学習に取り組もうとしましたか。				
2	あなたは、友だちを思いやる気持ちをもって過ごすことができましたか。				
3	あなたは、タブレットを使って学習を深めることができましたか。				
4	あなたは、学校やクラスのきまりを守って、落ち着いて生活することができましたか。				
5	あなたは、「チャイム前着席」など、時間を守って生活することができましたか。				
6	あなたは、先生や友達、お客さんにしっかりあいさつすることができましたか。				
7	あなたは、忘れ物をしないで生活できましたか。				
8	あなたは、学校に楽しく通えましたか。				
9	あなたは、家庭学習や宿題にしっかり取り組むことができましたか。				
10	あなたは、悩みや心配ごとを、学校の先生に相談することができましたか。				
11	先生方の授業は、分かりやすかったですか。				
12	あなたは、無言清掃にしっかり取り組むことができましたか。				
13	あなたは、去年よりたくさん本を読むことができましたか。				
14	あなたは、健康でいられるように運動したり、規則正しい生活を送ったりすることができましたか。				

★そのほか、何か先生につたえたいことがあったら、うらにかいてください。

年 組 名前

令和6年度 教職員自己評価

No.	評価項目	A~D
1	学校教育目標、学校経営方針を理解して教育活動に当たりましたか。	
2	「目指す教師像・児童像」の達成を意識して教育活動を行いましたか。	
3	校務分掌の配置は適切であり、機能しやすく構成されていましたか。	
4	会議時間の削減やペーパーレス化など、従前の働き方を改革する意識をもって業務にあたりましたか。	
5	死角となる箇所や瑕疵のチェックなど、施設・設備の整備を適切に行い安心・安全な教育活動を行うことができましたか。	
6	個人情報の管理（持ち出し、取扱い）を適切に行っていましたか。	
7	年度当初に校長が示した「サービスに関する基本姿勢」に則ってサービスの厳正に努めたか。	
8	在校等時間を意識し、効率の良い働き方ができるように努めることができましたか。	
9	「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことができましたか。	
10	児童の実態に応じて、一人一人の基礎的・基本的な学力の伸びを意識した指導・支援を行うことができましたか。	
11	年間指導計画に沿った授業を行うことができましたか。	
12	タブレット端末やICT機器を活用した授業改善に、積極的に取り組みましたか。	
13	道徳教育について、毎日の教育活動全体を通じて行うことができましたか。	
14	特別の教科道徳について、「考え、議論する道徳」の実現に向けた授業を実践することができましたか。	
15	特別支援教育への正しい理解と認識を深め、発達に課題がある児童に対して適切な支援を行うことができましたか。	
16	校内研修の回数や内容は充実していましたか。	
17	学校課題研究にブロックや学年で協力して取り組み、研修と修養に励みましたか。	
18	いじめ防止対策推進法に基づいていじめを認知し、解消までの見届けを適切に行うなど、学校・学年全体で組織的に対応することができましたか。	
19	新規不登校児童を出さない取組を充実させたり、継続不登校児童への適切な支援を行ったりすることができましたか。	
20	生徒指導や教育相談に関わる諸課題の解決に当たって、保護者や地域、関係諸機関との連携を適切に行っていましたか。	
21	児童は五小「生活のきまり」や「学習のルール」を守り、規律ある態度を身に付けていますか。	
22	五小「生活のきまり」や「学習のルール」に則った指導を行い、児童に発達段階に応じた規律ある態度で過ごさせることができましたか。	
23	体育の授業や外遊びに、意欲的に取り組む児童を育成することができましたか。	
24	児童の体力（跳躍力、持久力、投力）を向上させる取組を行うことができましたか。	
25	地域や保護者への情報発信を積極的に行うなど、開かれた学校づくりに努めましたか。	
26	コミュニティ・スクールとしての学校運営協議会の取組を理解しましたか。	
27	学校・学年教育目標などの各目標が生徒・保護者に理解されるように努めましたか。	
28	安全指導や学習指導などにおいて、三中や地域やPTA、外部の人材を積極的に取り込み、地域とともにある学校づくりに努めましたか。	
29	タブレットを活用しながら情報モラル教育を積極的に行うことができましたか。	
30	授業や諸活動で、学校図書館を活用できていますか。	
31	人権に関する様々な諸問題についてその諸問題への正しい理解と認識を深め、児童の人権感覚を育成することができましたか。	
32	児童や職員同士、来校者とのあいさつを率先して行うことができましたか。	
33	学校行事や学級経営、授業を充実させることにより、全教育活動をとおして児童の自己肯定感・自己有用感を育成することができましたか。	
34	無言清掃の指導を徹底して行うことができましたか。	

評価領域	自己評価の評価規準 ★校長自己評価シート項目から	自己評価	学校関係者 評価
I 円滑な学校 の運営 具現化	①学校の組織運営 危機管理 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 情報規定と持ち出し規則 	
	②基礎学力の定着 道徳教育 令和の日本型教育 の実践 特別支援教育 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 個別最適な学びの実践 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 タブレット端末の活用促進 道徳科と各教科との関連 道徳実践力の育成 家庭、地域社会との連携 特別支援教育の理解と推進 通常学級との交流 教員の資質向上 	
II 学力向上・豊かな人間性・健康・体力向上を養う教育活動	③生徒指導 教育相談 規律ある態度	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動、学級経営 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 個別の指導計画、支援計画 諸機関との連携 不登校対策委員会など 校内支援体制の整備 	
	④体力向上	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果分析 体育好きな児童の育成 技能向上のための取組の工夫 	
III 地域連携	⑤地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信（学校HPなど） 学校公開・授業参観 ・個人面談の実施 充実した学校運営協議会 の実施 地域、三中学校区間連携 P T A 活動の活性化 	
III 特色ある取組	⑥特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 本校の特色ある教育活動に関わる項目 昨年度の学校評価を踏まえた課題への解決 	

令和5年度 朝霞市立朝霞第五小学校 学校評価書

○自己評価の評価基準 A:できている B:どちらかと言えばできている C:どちらかと言えばできていない D:できていない

○学校関係者評価の評価基準 ・自己評価と同じ評価の場合→自己評価は妥当であると判断 ・自己評価と異なる評価の場合→学校関係者評価委員会としての見方を示す

評価領域B7:H14H24B7:H30	自己評価の評価規準 ★校長自己評価シート項目から	自己評価	学校としての考え 課題と改善点	関係者評価	学校関係者評価委員の意見・提言
I ・円滑な目標学校の運営 現化	①学校の組織運営 危機管理 業務改善 ・学校経営方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、 監査等 ・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの 作成・活用 ・情報規定と持ち出し規則	A	◇年度当初、校長は「学校経営方針」とともに朝霞市 服務規程に則った「服務に関する基本姿勢」を職員 に示し、目指す学校像の具現化を説明するほか、朝 霞第五小学校の職員として遵守すべき服務態度につ いて職員に周知した。 ◇各種たより等のペーパーレス化については取り組み 始めて2年目を迎え、保護者・地域の理解も深まっ てスムーズに進められた。 ◇学校は、教職員に継続して繰り返しの研修をととし て危機管理意識を醸成し、教職員の意識が高まっ ている。 ◆学校は、より円滑な学校運営・教育を実現するた めに、校務分掌の仕組みを見直していく必要がある。	A	○ペーパーレス化について、在学者の方々にはほぼ周知され ていると感じます。新入生のフォローを厚く指導するこ とで更に、浸透されていくと思います。 ○日々の学校の様子などHPで公開していることはとても 助かっているため、今後も継続して行って欲しい。 ○校務分掌について、引き続き課題となっています。(具 体的なことがわからないので申し訳ありません。)職員 数が少ない学校に比べると、各自の負担が少ないように 思いますが、変わってきている状況等に合っていないと いうことでしょうか。 ○課題に対しての対策・対応は達成されていると感じてお ります。様々な校内研修やペーパーレス化等の時代に沿 った対策も多く見受けられます。 その反面、コロナ禍もあり、教職員の皆さんと保護者 とのコミュニケーション不足等の原因によって価値観や教 育論がズレて来ているようにも感じております。基本姿 勢以前の問題で子ども達に寄り添う姿勢を、学校と家庭 と地域で連携を深めることが重要に感じております。
	②基礎学力の定着 道徳教育 令和の日本型教 育の実践 特別支援教育 研究・研修 ・指導計画の立案 ・「令和の日本型学校教育」の 実現(個別最適な学び、協働 的な学び)の実践 ・主体的・対話的で深い学びの 視点に立った授業改善 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・タブレット端末の活用促進 ・道徳科と各教科との関連 ・道徳的実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・特別支援教育の理解と推進 ・通常学級との交流 ・教員の資質向上	A	◇学校は、文科省の示す「令和の日本型学校教育」の 実践を目指し、外部講師を招聘しての校内研修に積 極的に取り組んだ。 ◇学校は、防犯教育、人権教育、校内研究に係る教職 員研修を行い、教職員の資質向上に取り組んだ。 ◇学校は、教職員がタブレット端末を活用しての授業 改善に進んで取り組み、活用スキルに自信をもつ教 職員が昨年度より増えている。 ◇学校は、特別支援教育に係る巡回相談や特別支援教 育推進専門員を活用して、学校全体の特別支援教育 に関する指導技術の向上に努めた。 ◆学校は、学校教育全体をととして道徳教育を推進す るとともに、「考え、議論する道徳」の授業実践に ついて研修を深めていく必要がある。 ◆学校は、教育基本法及び教育公務員特例法に定めら れた研修に、謙虚な姿勢で意欲的に学び続ける職員 を育成していく必要がある。	A	○「道徳」について、保護者のある年代の方々には学校で学 んでいない方もいるかと思っておりますので、保護者も一緒に 学んでいくことでより深く「考え、議論する道徳」が学 べると思います。 ○教育環境については、タブレットの導入等は評価していま す。 ○特別支援学級においては児童が自力で取り組めるよう配 慮されていたり気持ちの切り替えがスムーズにできるよ う声かけをされていてそれぞれが前向きに取り組んでい る様子がみられました。 ○文科省や教育研修に従った運営をさせていただいている事 は理解でき、評価します。 しかしながら、全項目で言えますが、スキルや指導方法 以前の課題が大きく感じてしまいます。 挨拶やゴミが落ちていてもかかわらず、素通りしてし まう教職員や保護者の背中を見られている事を忘れてし まっているように感じます。決して教職員だけが悪いの ではなく、学校と家庭と地域で協力し合って、道徳やモ ラルを子ども達への見本・手本となるように大人達が変

			<p>わらなければならないと感じます。 ○子どもたちが関心を持ち易い内容のテーマ設定や子どもたち同士だけで話し合ったり、時には先生同士が話し合う場面を子どもたちに見せたりなど、話し合うことやそれぞれの意見を尊重して、解決を導く意義を伝えていくことが大切かと感じます。</p>
<p>③生徒指導 教育相談 規律ある態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動、学級経営 ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、生徒理解 ・いじめ防止対策 ・個別の指導計画、支援計画 ・諸機関との連携 ・不登校対策委員会など 校内支援体制の整備 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校は、年度当初に学校における「いじめ防止基本方針」を定め、地域や保護者に学校ホームページで公表している。 ◇学校は、教育相談や生徒指導に関する研修を行い、教職員のいじめに関する危機管理意識の向上に努めている。 ◇学校は、保護者からの相談を受けた際には、各主任のほか管理職と連携して組織的な対応を行った。 ◆保護者からの相談を受けた担当から、より速やかに、より正確に学校全体で情報共有していく必要性がある。 ◆学校は、指導に関する基本的な考えを教職員全体で確認し、学級・学年を超えて同一歩調で積極的な生徒指導を行っていく必要がある。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめについて、先生と保護者の関係性が近いことで、大きな事件や事故を未然に防げると感じます。ITをすすめると同時に、顔と顔が見える関係性を大切にしたいと感じます。ペーパーレスをすすめているからこそ、保護者としては、手書きのお手紙など頂けると心に響くと思います。 ○コロナ禍をきっかけに不登校の児童が気になる。家庭はもちろんのこと、地域の協力も大切であると痛感します。 ○生活指導等一人一人を尊重しながらの指導は難しいと感じますがひき続き保護者の方々と連携し、早い対応で少しでも良い方に向かって欲しいと感じます。いじめや保護者からの相談に対して、早期に対応しているように見受けられました。時代の変化と共に教職員の立場や保護者の価値観の相違から対応が複雑化され、解決することが困難になってきております。学校と家庭が、互いに尊重し合って、協力して子ども達の成長を見守る姿勢、体制が重要であり、足りていないと感じます。校内においても担当や担任に任せてしまうのではなく、関係者全員が当事者意識を持って対応していく必要があると感じます。 ○初期対応の内容確認とそれに伴う迅速な報告の習慣化を目指す。対応にもよるが、初期段階で保護者側の言い分のみ確認するなど、当然ながら、職員、学校側の見解が歪曲して伝わらない様、注意が必要。また、学校側としても、保護者の要望や言い分にあまり傾倒しすぎずに、双方の事情に沿って協議を進めていくことが大切かと感じます。
<p>④体力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストの結果分析 ・体育好きな児童の育成 ・技能向上のための取組の工夫 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校は、体力向上推進委員会が中心となって、昨年度課題であった投力の向上に取り組んだ。 ◇体育部が中心となり、規律ある集団行動ができる力の育成に取り組んだ。 ◆引き続き体力の向上に取り組んでいく必要がある。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体育好きな児童を育成するために、常に児童同士も前向きな声掛けを心がけ、一人一人が目標を達成するまで継続し、達成する成功体験を積んでいくことが大切だと思います。 ○まだまだコロナ禍で取組に制約がある中運動量を確保していく取組は高く評価できると思います。 ○地域環境を考慮すると 学校生活の中での取組みはこの形で維持していければよいと感じます。 ○本校だけでなく、都市に住む子ども達は、授業だけでなく放課後の過ごし方も変わってきており、体力不足は否めません。できる限りの取組みをしていただけていると感じます。

<p>III 地域連携</p>	<p>⑤地域とともにある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信(学校HPなど) ・学校公開・授業参観・個人面談の実施 ・充実した学校運営協議会の実施 ・地域、三中学校区間連携 ・PTA、学校応援団活動等の活性化 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校は、学校ホームページや配信メールを活用して積極的に情報公開を行った。 ◇学校は、学校運営協議会委員とともに、より良い学校運営について実りある熟議をすることができた。 ◆学年や分掌に関する取組については、各種たよりのほかにも情報発信していく努力が必要である。 ◆学校運営協議会の取組については、昨年度に引き続き会議結果の公表や職員の参加などにより浸透させていく必要がある。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○HPについては、見に行かなくてはならないというハードルがあるため、SNSの活用も検討してみるのはいかがでしょうか。行内に関してはPTAと連携しBANDの活用も効果があると思います。三中校区ふれあい活動は、とても活気のある会となったと思います。 ○運営協議会の数値が低いので、会議結果の周知・職員の参加を積極的に希望します。 ○見やすいホームページと細やかな配信メールでペーパーレス化も定着してきていると思います。 ○学校公開の授業時間がせめてもう1限多いと、兄弟が在籍されている保護者の方もゆっくり参観出来ると思います。 ○ホームページも一新され、情報公開は積極的に活用できていると感じます。しかし受け取る側の家庭や地域がそこに追いつけていないように感じます。 学校運営協議会やPTA、学校応援団、町内会をはじめとする地域の皆様のそれぞれの活動は充実しておりますが、それぞれの連携と会員一人一人の帰属者意識の希薄化が課題だと思っています。 ○職員の参加による理解や浸透の必要性も課題ではありますが原点となる学校とは教え・学びの場であることを鑑み、職員が児童への指導に重きを置き、職務に集中できる環境づくりを学校運営協議会が外郭からサポートしていくことも大切かと感じます。
<p>IV 特色ある取組</p>	<p>⑥特色ある教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の特色ある教育活動に関わる項目 ・昨年度の学校評価を踏まえた課題への解決 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇学校は、ポストコロナの時代を見据えて学校行事を精選し、コロナ前に即した教育活動を、内容を変更した上で復活させた。それにより、昨年度に比べて多くの保護者や地域の方々に学校を開くことができた。 ◇課題となっているあいさつ指導について、児童委員会が率先して行う取組のほか、教職員への啓発、学校運営協議会を巻き込んだ取組など、指導方法や手段を工夫・改善して実施した。 ◆学校は、増加するネット被害やネットいじめの防止について、さらに情報モラル意識を児童に指導していく必要がある。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童から自発的にあいさつをしようという気持ちを感じられるようになりました。 ○五小児童はとても積極的に挨拶をしていただけていると感じます。 ○ネット被害・ネットいじめに関しては、どんな被害内容かも気になってます。 ○ポストコロナ対応として保護者や地域と連携を図り、子ども達を共に見守る為にも、働き方改革の捉え方が重要だと感じます。 特色を活かしていく為にも、受賞したビオトープの活用と情報発信に取り組んでいただきたいと期待します。 また、市内小学校の彩夏祭、鳴子への参加も他校へ広めて行くことが課題だと感じております。 ICTの充実や活用、モラルといったものは、学校だけでなく、第一義的な責任は保護者にありますので、連携が最重要だと感じます。